



* 凛(りん)として: 自分のために! * 輪(りん)として: 仲間のために! * 鈴(りん)として: 社会のために!

*** H30.5/16(水)~19(土)“第26回日本乳癌学会学術総会 in 京都”に参加しました~! ***

・学会最終日に開催される“患者セミナー”(患者の立場で参出来るセミナー)には2回程参加した経験がありましたが、今年度は、思い切って4日間フルで参加。(基本、非会員(患者・家族)も当日参加登録が可能ですが、今回はサポートいただき、背中を押していただいたの参加となりました。お声掛けいただいたスタッフに感謝申し上げます。)

・国立京都国際会館(京都駅から地下鉄烏丸線で20分の最終駅)にて「Creative Japan 新たな時代」をメインテーマに開催。診療ガイドラインの改訂(推奨項目の変更など)を始めとした医療全般における最新情報などを盛り込んだ勉強会の場になりました。その中でワークショップや厳選講演、ミニシンポジウムなど自分で選択したセミナーに参加したのですが、中でも『若年性乳がんサポートコミュニティ PinkRing』代表の方が学会初デビューとなる貴重な講演をされ、今後の学会への患者会参加の道筋を作っていたように感じました。

・19日(土)の市民公開講座では、舞台女優の藤山直美さん(昨年京都大学病院で手術・抗がん剤治療を経験)の体験談を伺う機会があり、『日本の将来の為に長生きして!』と周囲に検診を言い伝えて行く!と明るく話されていたのが印象的でした。

・演者として参加された桜井なおみ氏のミニシンポジウムの中では、学会の中での「乳がん患者会のネットワーク作り」や「患者教育」にも力を入れて行く方向で検討はどうか...との話題にもなり、患者自身も医療に関わる最新情報等の知識(医療スタッフの医学に対するハイレベルな取組等)を見聞する機会はとても必要(且つ重要)であることを痛感いたしました。

・来年は東京での開催が決定しています。最新情報満載ですので、ご興味・関心のある方、一度参加してみませんか?



*** りんりんの会・イベントのご報告 ***

**5/26(土)
再建の勉強会**

* 大崎市民病院形成外科医の清野広人先生による『乳房再建の現状と最新情報』のご講演と再建体験者3名(インプラント・自家組織・脂肪注入それぞれの術式の患者様)のそれぞれの体験談など、その後に情報交換会(相談会)があり、乳腺専門医の吉田先生も交えての貴重なおしゃべり会に。今回の参加者(26名)の半数は遠方から参加(他の病院)の患者様。お困りの方に直接情報が届けられて良かった...と思いました。(※詳細につきましては“りんりんの会ブログ”をご覧くださいね。)

**6/9(土)
こころんミニ講話
・相談会**

* H27年からスタートした「こころん」(20代~40代くらいまでの若年層患者様の為の会)、今回で第10回目の開催となりました。吉田先生から「若年性乳癌患者と患者会の役割」の講話があり、その後に2グループに分かれての情報交換・相談会。医療スタッフ(乳腺専門医の他に乳がん看護認定看護師、放射線技師)を交えてのおしゃべり会では、放射線治療による被ばくのこと、がん保険のこと、社会復帰(仕事・生活)のこと、治療の副作用のことなどが話題に。医療スタッフからアドバイスをもらって安心したり、患者様同士で情報共有出来たことで元気につながったり。和気あいあいとした会になりました。

**6/23・24(土日)
温泉に入ろう会**

* “ピンクリボンのお宿探検ツアー”第1回め、作並温泉「岩松旅館」に6名でお邪魔しました。チェックイン時に担当者より『今回、社長様のご厚意でお部屋を変更しております』とお話があり、源泉流しのお風呂が付いているお部屋に泊まらせていただくことに...! 中庭付きの広々としたお部屋(マッサージチェア完備)でゆったり過ごし、もちろん岩風呂(女性限定の時間あり)にも入って、十二分に満喫した時間を過ごすことが出来ました♪旅館の方々のご配慮に感謝でした。(※今回は「患者会」ということでご配慮いただいたのだと思いますが、通常で毎回そのような対応が可能かどうかは分かりません。)



~いんいん会報に寄せて No.35~

医療ドラマ

大崎市民病院 乳腺外科科長 吉田 龍一

皆さんは医療ドラマは好きですか。古くは、ベンケーシーから白い巨塔、近年では Dr.コトー診療所、ドクターX、ブラックペアンなどなど、次々に放送され話題になります。

皆さんは、そんなドラマを見て現実の医療の世界もこうなのだと思いませんか。どんなに困難な病気や怪我でも、スーパードクターの手にかかれば必ず治る。しかも、このスーパードクターは大学病院とは相容れず一匹狼だったりします。こんな医者がかっこいいし、まさに理想的ですね。

私は医療ドラマはストーリーとしては面白いのかもしれませんが、あまりにも現実離れしていることが多く、職業柄アラ探してしまいます。逆に、「渡る世間は鬼ばかり」では、藤岡琢也扮する板前が手つきが稚拙でとても手際よく料理していると思えませんが、あまり気になりません。自分が関係する領域じゃないと許せるのかも知れません。だから、刑事物でもウソくさいシーンがありますが（やたら発砲するなど）、もしかしたら、世の警察関係の方々も実は警察や刑事物のドラマはあまり見たくないのではないのでしょうか。

ドラマと実際の医療現場との違いは何かというと、

- ① ドラマの台詞回しのような会話はしないし、普段は雑談もします。そもそも病院内が静かすぎ。
- ② あんな何でも治せて、失敗しない天才医師がいるわけない。
- ③ 部下や患者を罵倒するような横柄な医者がドラマでは沢山出てきますが、少なくとも私の周りにはいません。
- ④ チーム医療や医療安全が叫ばれている昨今、一人のスーパードクターが勝手に手術をすることはない。
- ⑤ そもそもあんなかっこいい医者や、美男美人揃いの病院なんて見たことがない。
- ⑥ 手術している医師は、メリハリがなく最初から最後まで気難しい顔をしていて余裕がない。手術中は雑談もするし比較的リラックスしているものです。
- ⑦ 医師や看護師がヒマすぎ。屋上に行って話をしたり、車椅子を押して外を散歩したりするヒマはない。
- ⑧ 医師や看護師は、カルテや診断書、説明書類の作成や、採血、清拭などの業務に多くの時間を費やしている。

書きだしたらキリはありません。医療ドラマに共通して言えるのは、大学病院の医師達は悪で信念を貫く医師は善という構図であったり、患者の悩みや不安に寄り添うような主人公とこれに対立する高飛車かつ横柄な医者という構図の中で、「悪」が治せなかったりする患者を「善」がいつも簡単に治したりして、最後は勧善懲悪、ざまあみろ的なストーリーに視聴者はスッキリするんですね。でも、そんなシチュエーションは現実にはありません。

どうせ作り話なんだしエンターテインメントとして見れば面白いのではないかと、医療ドラマとは言え、あくまで人間関係を医療を通して見ているだけだから、そんなに目くじら立てずにストーリーを楽しめば、とも思います。また、ドラマを見て医者になりたいとか看護師になりたい、医療関係の仕事に就きたいと思う人が増えるのであればそれは大歓迎です。

ドラマの中の病院は、現実離れしていて美男美女揃いで雑用も少なく、理想の職場です。必ずイヤミな人がいるのが玉にきずですが。そして、優秀な医師や看護師がいて、必ず患者が助かるというのも理想的です。しかし、現実の医療はドラマと違って意外と地味な世界で、患者が全て助かるということはありませんし、ましてや独りよがりなスーパードクターもいません。病院は手術や救急の現場の医師だけの働きで成り立っているわけではなく、医師や看護師、薬剤師などの専門職のみならず事務職も含めた多職種連携によるチーム医療、医療安全など、全職員のドラマにならないような地味な努力でいい医療を提供しようと思っています。

* 今後のイベント情報は、[大崎市民病院 HP](#) 又は [りんりんの会ブログ](#) などで随時更新しています。

*** 連絡窓口：大崎市民病院地域医療連携室 がんサロン ☎ 0229-23-3311 ***